

ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

東京大学先端科学技術研究センター ボード会議

令和3年5月12日

令和3年5月 12 日
東京大学先端科学技術研究センター

令和2年度に係る業務の実績に関するボード会議助言・意見

○令和2年度に係るボード会議の内容……………P3

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

Ⅰ. 評価の項目……………P5

Ⅱ. 評価の分析……………P6

○令和2年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。

本年度は、下記の日時において会合を開催した。また、当日ご欠席のメンバーについては、日時を改め助言および評価を得た。

日 時:令和2年 11 月6日(金) 16:00~18:00

場 所:先端研4号館2階講堂および ZOOM による TV 会議

出席者:以下のとおり。

【ボードメンバー】

氏名	職名
浅川 智恵子	IBM Fellow
大隅 典子	東北大学 副学長
大西 隆	東京大学 名誉教授
小泉 英明	(株)日立製作所 名誉フェロー
小林 喜光	(株)三菱ケミカルホールディングス 取締役会長
小松崎 常夫	セコム(株) 前顧問
西村 陽一	(株)朝日新聞社 常務取締役

【先端研】

氏名	職名
神崎 亮平	所長、教授(生命知能システム分野)
中村 尚	副所長、教授(気候変動科学分野)
近藤 高志	副所長、教授(高機能材料分野)
石北 央	教授(理論化学分野)
小泉 秀樹	教授(共創まちづくり分野)
杉山 正和	教授(エネルギーシステム分野)
高橋 哲	教授(光製造科学分野)
牧原 出	教授(政治行政システム分野)
宮崎 敏朗	事務長
海老澤 幹夫	経営戦略企画室 副室長

欠席された下記のメンバーと別途会合をした日は、次のとおり。

増田 寛也	日本郵政㈱執行役社長 会合の日：令和3年2月3日（水）
-------	--------------------------------

○令和2年度に係るボード会議の内容（会議議事次第・内容）

◆16:00－17:30 事業報告(プレゼンテーション)

先端研所長の神崎亮平教授他、先端研経営戦略会議のメンバーより、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、令和2年度における先端研の事業活動について、説明を行った。内容としては、若手の人材を育成すること、地域との連携を推進すること、インクルーシブ・デザイン・ラボの継続と発展、グローバルセキュリティー研究分野をすすめること、そしてアート、デザインと科学技術の融合プロジェクトをすすめることの5つであった。特に、事務局より宮崎事務長による報告もあり、所全体としての報告体制となった。

◆17:30－18:00 事業報告(質疑応答)

大隅委員が議長となり、各委員から助言・意見をいただいた。助言・意見の概要は後述する。多岐にわたり多くの意見・助言があり、「外部評価」としてまとめ分析することができた。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

	項目	助言、評価の内容
1	研究力	(1) 高度な学際融合、研究プロジェクトに横ぐしが通っていることが評価された。 (2) SDGs との関連において研究活動をマッピング展開することの意見があった。
2	人事体制	(1) 任期制度、定年制度の柔軟な運営に評価があった。 (2) 女性参画の拡充についての意見があった。
3	財務体制・社会連携	(1) 大型外部資金獲得の実績に対する評価があった。
4	教育	(1) 先端研らしさを強調した学生教育をアピールすべきとの意見があった。
5	その他	(1) コロナ対策に対する、先端研への期待についての意見があった。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

II. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理し、次のように分析をすすめた。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

1. 研究力

先端研では、研究プロジェクトの学際融合が高度化しているとの評価があり、SDGsとの関連についても意見をいただけた。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	<p>先端アートデザインなど、高度に融合された、横ぐしのある研究内容である。</p> <p>アートデザインを取り込むのは世界的な傾向であり、期待する。</p> <p>地域共創リビングラボとの連携、特に民 (People) とを取り込んで効果的である。</p> <p>地方自治体等との連携が多数あり、地方の課題解決のための研究がある。</p>	意見なし	<p>横ぐしのある異なる分野の研究は長期的な結果に役立つものとしてはどうか。</p> <p>SDGsとの対比でこの高度な融合さをマッピングしてはどうか。</p> <p>国際的な視点で、大学の研究機関のネットワークづくりなどもあるのではないか。</p> <p>セキュリティ分野での研究では、さらに国際的な連携を強化して取り組んでほしい。</p>

2. 人事体制

人事体制の管理運営にあたり柔軟な対応をしていることに評価あり、女性参画のさらなる展開にむけての意見をいただいた。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	10年任期、定年制度などへの柔軟な取組がある。	意見なし	女性の参画がインクルーシブの1丁目1番地であり、抜本的な対応を望まれる。

3. 財務体制・社会連携

大型外部資金獲得への評価があり、地域との連携、取組の展開が評価された。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制	ムーンショットの獲得など大型外部資金の獲得がある。	意見なし	サイエンスなくしては、ポリティックスの議論が出来ない時代であり、先端研の役割に期待する。

4. 学生教育

学生教育については、先端研らしさのアピールの必要性が指摘された。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	意見なし	先端研ならではの学生教育、教員とのチームワークなどの特徴を強調して、学生にアピールすることができるのではないか。

5. その他

コロナウィルス対策について、先端研としての役割に期待があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	意見なし	ラボラトリオートメーションが、コロナ検査のために自動化という視点から有用ではないか。 コロナ感染対策について、出退勤ログなどについて記録しているなどについて、確認の意見があった。